

三浦半島から得られた イッサイフシエラガイと ミカドウミウシの記録

萩原清司*・幸塚久典**

Record of *Pleurobranchus mamillatus* and
Hexabranchnus sanguineus
collected in the Miura Peninsula

HAGIWARA Kiyoshi* and
KOHTSUKA Hisanori**

キーワード：軟体動物，側鰓目，裸鰓目，三浦半島，
分布

Key words : mollusca, Pleurobranchomorpha,
Nudibranchia, Miura Peninsula,
distribution

イッサイフシエラガイ *Pleurobranchus mamillatus* Quoy & Gaimard, 1832 は、インド-太平洋の熱帯～温帯域に分布する軟体動物門腹足綱側鰓目カメノコフシエラガイ科の動物で、国内では伊豆半島以南の南日本から極稀に記録されているが、これまで三浦半島から標本に基づく記録はない(生物学研究所, 1949, 1955; 中野, 2004, 2018; Gosliner *et al.*, 2007, 2015)。また、ミカドウミウシ *Hexabranchnus sanguineus* (Rüppell & Leuckart, 1830) は、三浦半島からの標本に基づく記録は1例(萩原, 2006)のみが知られる。

この度、いずれも本州では極めて稀とされる両種(中野, 2004)の標本が、三浦半島南部三浦市の相模湾沿岸において採集されたので、個体および採集時の状況について報告する。尚、本報告の計測値は生時に行い、その後10%ホルマリン固定後にグリセリンに置換した。本標本は東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所の教育棟で保管している。

本報告をまとめるにあたり、貴重なご助言をいただいた(社)観音崎自然博物館の山田和彦氏に感謝する。また、標本の採集および寄贈をいただいた東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所の吉川晟

弘氏、幸塚 愛氏、海外町の敷丸の小川 学氏に感謝の意を表す。

供試標本及び記載

○イッサイフシエラガイ *Pleurobranchus mamillatus* Quoy & Gaimard, 1832

東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所所蔵(第1図)、1個体、全長83.0 mm、採集日20200508、神奈川県三浦市三崎町小網代(北緯35°09'52", 東経139°37'13"; 第3図)、東京大学臨海実験所所有筏から垂下したカタユレイボヤ飼育カゴへ進入した個体、吉川晟弘・幸塚 愛採集。

側鰓目 Pleurobranchomorpha, カメノコフシエラガイ科 Pleurobranchidae。体は中央が盛り上がった円盤状で、触角は円筒形、背面には円錐形および鱗状の突起がある。体色は黄褐色で、背部突起の周囲には桃色の環状斑がある。大型種で全長500 mmに達するとされる(中野, 2018)。三浦半島からはよく似たゼニガタフシエラガイ *P. forskalii* Rüppell & Leuckart, 1828 が知られる(萩原, 2010)が、ゼニガタフシエラガイは背部に円錐形突起や桃色の環状斑がないなどの点で本種と区別できる。供試標本は、本種の三浦半島からの初記録となる。

○ミカドウミウシ *Hexabranchnus sanguineus* (Rüppell & Leuckart, 1830)

東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所所蔵



第1図 イッサイフシエラガイ *Pleurobranchus mamillatus* Quoy & Gaimard, 1832, 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所所蔵。

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95

** 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所 〒238-0225 神奈川県三浦市三崎町小網代 1024

原稿受付 2020年10月1日 横須賀市博物館業績 第759号

(第2図), 1個体, 全長193.0 mm, 採集日20200515, 神奈川県三浦市三崎町二町谷沖堤防周辺(北緯35°08′53″, 東経139°36′22″; 第3図)水深約10 m, エビ刺し網漁により混獲した個体, 小川学採集。

裸鰓目 Nudibranchia, ミカドウミウシ科 Hexabranchidae。体は小判形でドーリス類に似るが, 外套膜がより幅広く発達し, この外套膜を使って遊泳することが知られている (Gosliner *et al.*, 2007)。肛門周辺にある特異な6葉の独立した二次鰓によって他種と容易に区別され, 本種の学名の由来ともなっている。体色は紅白斑の個体が多いが, 淡紫色や紫斑の個体もある (中野, 2018)。三浦半島からは横須賀市佐島の天神島・笠島周辺海域からの記録がある (萩原, 2006)。

引用文献

Gosliner T. M., Valdés Á. and Behrens D. W. 2007. Indo-Pacific Nudibranchus and Sea slugs a field

guide to the world's most diverse fauna. 426pp. Hong Kong through global interprint .

Gosliner T. M., Valdés Á. and Behrens D. W. 2015. Nudibranch and Sea slug identification Indo-Pacific. 408pp. NewWorld Publications.

萩原清司 2006. 横須賀市天神島臨海自然教育園・笠島周辺の後鰓類 (軟体動物: 腹足綱). 横須賀市博研報 (自然), (53): 19-32.

萩原清司 2010. 須賀市天神島臨海自然教育園・笠島周辺の後鰓類追補. 横須賀市博研報 (自然), (57): 19-23.

中野理枝 2004. 本州のウミウシ. 304 ページ. ラトルズ.

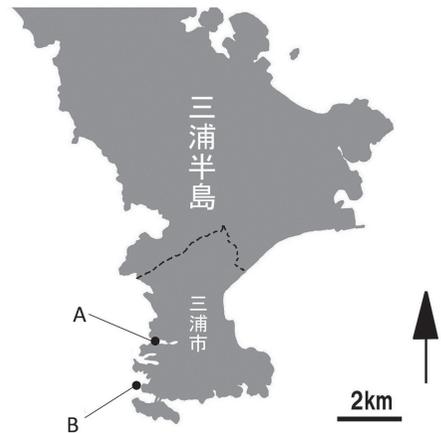
中野理枝 2018. 日本のウミウシ. 544 ページ. 文一総合出版.

生物学御研究所編 1949. 相模湾産後鰓類図譜. 194 ページ. 50 図版. 岩波書店.

生物学御研究所編 1955. 相模湾産後鰓類図譜補遺. 194 ページ. 50 図版. 岩波書店.



第2図 ミカドウミウシ *Hexabranchnus sanguineus* (Rüppell & Leuckart, 1830), 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所所蔵。



第3図 採集地点図. A: イッサイワシエラガイ採集地点 (北緯35°09′52″, 東経139°37′13″). B: ミカドウミウシ採集地点 (北緯35°08′53″, 東経139°36′22″).